

令和8年5月29日発行



農業担い手メールマガジン（第453号）



<トピックス>

1. 農業者の経営発展を支援する様々な事業や取組みを紹介しています
2. 食品企業と繋がる産地連携フォーラムのご案内
3. 「令和8年度 女性農業者のための事業推進力&チームマネジメント力アップ研修」受講生募集開始！（6月17日（水）まで）
4. 牛乳乳製品・牛肉の「みえるらべる」取組拡大中！
5. 中山間地域で「稼ぐ」ための取組みを支援します！
6. 「令和8年度 病害虫発生予報第2号」（令和8年5月13日（水）付け）を発表しました
7. 「みどりの食料システム戦略」技術カタログ（Ver.6.0）の公表
8. 病害抵抗性・多収・高品質を兼ね備えた中生の茶品種「りんめい」
9. 飼料用トウモロコシ新品種「ハヤミノルド」の種子販売開始
10. 高温登熟性に優れ、多収で病害に強い良食味水稲新品種「みなもさやか」
11. 経営マスターコース「ファイナンス」受講者募集中！

◆◆◆現場の皆さんへ◆◆◆

-
1. 農業者の経営発展を支援する様々な事業や取組みを紹介しています
-

農林水産省は、農業者の経営発展を支援する様々な事業や取組みを紹介するため、「農業経営支援策活用カタログ2026」として取りまとめ公表しております。課題テーマ毎に活用いただける支援策を整理しておりますので、ぜひご覧ください。

◇ 「農業経営支援策活用カタログ2026」（PDF:13,128KB）はこちら（農林水産省 web）
→ https://www.maff.go.jp/j/kobetu_ninaite/n_pamph/180529.html

◇ お問い合わせ先
農林水産省経営局経営政策課（担当：経営企画グループ）

TEL : 03-6744-0575 (直通)

2. 食品企業と繋がる産地連携フォーラムのご案内

食品業界において、国産原材料志向が高まっていることから、生産者、食品事業者等が互いのニーズを共有しながら、長期で安定した取引を行う「産地連携」の取組が進められています。この取組を推進するため、農林水産省では「産地連携フォーラム」を立ち上げており、既に多くの食品事業者が参画しています。

本フォーラムでは、生産者の皆様に向けても、産地連携に役立つ情報や事例の発信を行っています。また、この取組計画の下で食品事業者が産地に農業機械・資材を貸与・提供する取組に対する補助事業も実施しています。

生産者の皆様にとっては、食品事業者との連携により、次のようなメリットが期待できます。

- ・食品事業者による機械・資材の提供等による労働負担の軽減
- ・安定的な販路・収入の確保

是非参加をご検討ください！

◇ 「産地連携フォーラム」の詳細についてはこちら（農林水産省 Web）

→ <https://agriculture-foodindustry-regional sourcing.maff.go.jp/>

◇ 「産地連携フォーラム」の紹介動画はこちら（農林水産省公式 YouTube「maffchannel」）

→ https://youtu.be/zvq6C2nDY_o?si=-C6mg235yICKmzRm

◇ 農林水産省補助事業（産地連携支援緊急対策事業）に関する情報はこちら

→ <https://www.lapita.jp/maff/sanchirenkei2026/>

◇ お問い合わせ先

農林水産省 大臣官房 新事業・食品産業部 食品製造課（担当：河野・伊東）

TEL : 03-6738-6166

令和7年度 産地連携支援緊急対策事業について

事業事務局 TEL : 03-5656-1773

3. 「令和8年度 女性農業者のための事業推進力&チームマネジメント力アップ研修」受講生募集開始！（6月17日（水）まで）

大好評につき本年度も「女性農業者のための事業推進力&チームマネジメント力アップ研修」を開催します！

本研修では、農業経営者として、そして地域農業を率いるリーダーとして、より自信をもって自分らしく活躍するためのマネジメント・リーダーシップ能力を、全国から集まった女性農業者の仲間と交流しながら体系的・実践的に習得していく約8か月間の全国研修です。今年度は、デジタルツールの活用や更なるメンターによるコーチング機会の提供など、それぞれの受講生のニーズに寄り添った研修プログラムとなっています。ぜひ以下の研修専用ホームページからご応募ください！

【概要】

- 研修期間 令和8年7月22日（水）～令和9年2月17日（水）（予定）
- 内容等 対面（東京）、実地、オンラインを交えた講義全9回＋eラーニング2回・コーチング3回
- 受講費用 5万円（税込）
- 定員 30名
- ◇ 詳細・応募フォームはこちら
→ https://ntour.jp/women/management_training/

■募集期間■

令和8年5月18日（月）から令和8年6月17日（水）23時59分まで

■説明会の開催■

本研修の説明会を実施します。研修のポイントや前年度受講生による体験談などをお話します。

ぜひ、お気軽にご参加ください。

- 開催日時 令和8年6月3日（水）14:00～15:00
- 開催方法 オンライン
- ◇ 説明会申込フォームはこちら
→

<https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSf7a5YrA0mhrx7zeIY914BkFTjHVkct8GPxb9p7xF4BrwqZcg/viewform>

※実施主体

株式会社 農協観光

◇ 本研修に関するお問い合わせ先

(株) マイファーム 伊藤

MAIL : women-skillup@myfarm.co.jp

TEL : 050-5527-2841

4. 牛乳乳製品・牛肉の「みえるらべる」取組拡大中！

農林水産省では、農産物 24 品目を対象として、生産者の皆様の環境負荷低減の取組を、3 段階の星で消費者に分かりやすくラベル表示する「見える化」の取組を推進しています！

(ラベル愛称：みえるらべる)

畜産物では、令和 8 年 3 月から、牛乳乳製品及び牛肉に「実証用みえるらべる」を表示して、販売実証を開始しています。

このたび、第 2 弾として新たに 3 件の商品が販売実証に参加することになりました。

◇ 販売実証（第 2 弾）の商品および店舗（PDF:1,018KB）はこちら

→

https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyo/seisaku/mieruka_chikusan_pilot_dairy_beef_2nd.pdf

農産物では、事業者の皆様から付加価値向上の声も聞こえてくるようになりました。

販売実証中の牛乳乳製品及び牛肉については、随時新たな協力先・商品を募集しています！

ご関心のある方は次の【お問合せ先】までお気軽にご連絡ください。

◇ お問い合わせ先（畜産物の環境負荷低減の取組の「見える化」実証について）

→ https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyo/seisaku/mieruka_chikusan.html

本格運用に向けて、生産者や事業者の皆様のご協力のもと、牛乳乳製品・牛肉の「見える化」の販売実証を行い、運用上の課題の把握や改善を進めます。

※ご参考

「見える化」の対象品目は、令和 8 (2026) 年 3 月時点で米や野菜、茶などの耕種作物 24 品目です。

◇ 環境負荷低減の「見える化」についてはこちら（農林水産省 Web）

→

https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyo/seisaku/being_sustainable/mieruka/mieruka.html

◇ お問い合わせ先

農林水産省大臣官房みどりの食料システム戦略グループ（担当：地球温暖化対策調整・推進班）

MAIL：mieruka-chikusan@maff.go.jp

TEL：03-6744-2473（直通）

農林水産省畜産局総務課畜産総合推進室（担当：調整班）

TEL：03-6744-0568（直通）

5. 中山間地域で「稼ぐ」ための取り組みを支援します！

<「元気な地域創出モデル支援(地域力活用型)」事業に取り組みたい地域・団体を募集中！>

中山間地域等において、担い手不足、労力の増大、販路確保の困難、地域の農産物の活用不足といった課題を抱えていませんか。

このような課題を解決するため、農林水産省では、地域資源を活かしながら地域で「稼ぐ」ための取組を支援しています。

農業者に加え、地域外の人材や企業等と連携しながら、地域力活用に向けた調査、計画作成、実証、新たな栽培技術の導入等に向けた生産環境条件の整備をすることができます。

▼ 本事業で改善を目指せる課題例

- ・担い手不足や人手不足により、作業負担が増え省力化が進まない
- ・地域の農産物を活かさきれず、付加価値向上や商品化が進まない
- ・販路確保が難しく、販売体制が弱いため、売上拡大につながりにくい

▼ 活用できる取組例

- ・省力化作物や新たな栽培技術、スマート農業技術の導入、環境に配慮した農業等の導入
- ・農業用機械の導入、実証に必要なほ場条件の改善
- ・人材確保・育成、地域の農産物を活用した商品開発、作物栽培から販路確保までの一体的な取組

▼ 本事業の POINT

- ・定額、1/2 以内(上限 3,000 万円/地区)の支援が受けられる

- ・地域力活用に向けた調査、計画作成、実証や新たな栽培技術の導入等に向けた生産環境条件の整備に関する取組を支援
- ・栽培、加工、流通、販売を見据えた収益力向上に関する取組を行うことが可能
- ・3年間の計画に基づき、地域の活性化につながる

「新しい技術で省力化したい」「地域農産物の価値を高めたい」「地域ぐるみで販路を広げたい」などお考えの方に大きなチャンスです。

農業経営体の販売額10%以上の増加や生産コスト10%以上の削減等の成果目標を設定し、地域外の人材や企業等と連携することにより、地域の特色を活かした農産物のブランド化、地域資源を活用した商品開発等による付加価値の向上、流通・販売事業者との連携による販路開拓の推進に向け、ぜひ応募をご検討ください。まずは関係者間で情報共有のうえ、早めのご相談をおすすめします。

<「元気な地域創出モデル支援（地域力活用型）」事業>

■実施期間：1年間（計画期間：3年間）

■交付率：定額、1/2以内（上限3,000万円/地区）

■事業実施主体：地域協議会

■申請方法：所在の都道府県を通じて申請を受け付けます

※参加にあたっての主な要件等は次の農水省HPをご覧ください。

◇「元気な地域創出モデル支援（地域力活用型）」事業の詳細についてはこちら（農林水産省Web）

→ https://www.maff.go.jp/j/g_biki/hojo/r7_hosei/260127.html

◇「元気な地域創出モデル支援（地域力活用型）」事業のPR資料（PDF:2,016KB）（3～4ページ）はこちら（農林水産省Web）

→ https://www.maff.go.jp/j/nousin/kouryu/attach/pdf/shinko_kouhukin-562.pdf

◇ お問い合わせ先

農林水産省農村振興局農村政策部地域振興課（担当：事業指導班）

TEL：03-3501-8359（直通）

6. 「令和8年度 病虫害発生予報第2号」（令和8年5月13日（水）付け）を発表しました

農林水産省は、今後の農作物の病虫害発生動向や防除について「令和8年度病虫害発生予

報第2号」を公表しました。

気象庁の向こう1か月の予報（5月7日付け）では、気温は、北日本、東日本及び西日本で高く、沖縄・奄美で平年並か高いと予想されています。降水量は、全国ではほぼ平年並と予想されています。

水稲では、イネミズゾウムシの発生が、北東北及び北陸の一部の地域で多くなると予想されています。

麦では、赤かび病の発生が、北関東、東海、近畿、中国及び北九州の一部の地域で多くなると予想されています。

野菜では、トマトのコナジラミ類の発生が、北関東、四国及び九州の一部の地域で多くなると予想されています。また、いちごのハダニ類の発生が、北陸及び北九州の一部の地域で多くなると予想されています。

果樹では、果樹カメムシ類の発生が、北陸、近畿、中国、四国及び北九州の一部の地域で多くなると予想されています。また、なしの黒星病の発生が、東海及び中国の一部の地域で多くなると予想されています。

この他、なしのシンクイムシ類等、地域によっては多くなると予想されている病害虫があるので、都道府県の発表する発生予察情報等を参考に適期の防除を実施してください。

◇ 「令和8年度 病害虫発生予報第2号」の発表について（令和8年5月13日（水）付け農林水産省プレスリリース）はこちらから（農林水産省 Web）

→ <https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/syokubo/260513.html>

※ 都道府県の発表する病害虫発生予察情報と併せてご利用ください。

◇ 都道府県の病害虫発生予察情報などはこちらから（農林水産省 Web）

→ <https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/gaicyu/yosatu/index.html>

◇ お問い合わせ先

農林水産省消費・安全局植物防疫課（担当：国内防除第2班）

TEL：03-3502-3382（直通）

農林水産省は、みどりの食料システム戦略の実現に貢献する技術をとりとまとめ、「みどりの食料システム戦略」技術カタログとして公表しています。今般、令和8年4月に最新版の「みどりの食料システム戦略」技術カタログ(Ver. 6.0)を公表しました。

Ver. 6.0では、技術の進展を受けて「現在普及可能な技術」23件及び「みどりの食料システム法の認定を受けた基盤確立事業」16件を追加し、合計478件の技術を掲載しています。

広く関係者の皆様に有用な新技術を知っていただくとともに、各地域の状況に適した技術の導入のご参考になれば幸いです。

◇ 「みどりの食料システム戦略」技術カタログ（農林水産省 Web）

→ <https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyo/seisaku/midori/catalog.html>

◇ お問い合わせ先

農林水産省大臣官房政策課技術政策室（担当：推進班）

TEL：03-3502-3162（直通）

8. 病害抵抗性・多収・高品質を兼ね備えた中生の茶品種「りんめい」

国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構（以下「農研機構」）は、主要な病害に強く、収量と品質に優れた中生の茶品種「りんめい」を育成しました。

「りんめい」は、炭疽病と輪斑病に対する抵抗性を有し、育成地において化学合成薬剤を使用せずに栽培した場合、一番茶から三番茶までの収量は「やぶきた」の2.5倍と多収です。

新芽は鮮やかな濃緑色で、被覆栽培（新芽を遮光資材で覆って育てる栽培方法）を行うと色合いが一層向上するため、高品質な煎茶、かぶせ茶、粉末茶、てん茶の製造に適しています。

これらの特徴は、輸出や有機栽培の拡大に貢献することが期待されます。

◇ プレスリリースはこちら（農研機構 Web）

→ https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/niffts/175584.html

◇ 農研機構へのお問い合わせはこちら（農研機構 Web）

→ <https://www.naro.go.jp/inquiry/index.html>

◇ お問い合わせ先

農林水産省農林水産技術会議事務局研究企画課（担当：戦略的実装班）

TEL：03-3502-7407（直通）

9. 飼料用トウモロコシ新品種「ハヤミノルド」の種子販売開始

農研機構と北海道立総合研究機構は、飼料用トウモロコシ新品種「ハヤミノルド」を育成しました。

本品種は、超極早生で、北海道の根釧・道北の気温が低い地域(栽培限界地帯)での無マルチ栽培が可能であることに加え、北海道内の温暖な地域では秋小麦播種前の8月下旬から9月上旬に収穫できることから、従来品種よりも栽培期間が短い特性を生かしたさまざまな作付け体系に対応可能です。

また、病害に強く、倒れにくいことから、北海道内のトウモロコシ作付面積の増加、良質サイレージ原料の安定栽培および作業分散など生産性向上への貢献が期待されます。

◇ プレスリリースはこちら（農研機構 Web）

→ https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/harc/174223.html

◇ 農研機構へのお問い合わせはこちら（農研機構 Web）

→ <https://www.naro.go.jp/inquiry/index.html>

◇ お問い合わせ先

農林水産省農林水産技術会議事務局研究企画課（担当：戦略的実装班）

TEL：03-3502-7407（直通）

10. 高温登熟性に優れ、多収で病害に強い良食味水稻新品種「みなもさやか」

農研機構は、高温登熟性に優れた良食味水稻新品種「みなもさやか」を育成しました。

本品種は登熟期が高温でも玄米品質が低下しにくいことに加え、いもち病に強く、縞葉枯病（しまはがれびょう）に抵抗性があります。

さらに、西日本地域の主力品種「ヒノヒカリ」より2割程度多収です。熟期は「ヒノヒカリ」並みで、食味も「ヒノヒカリ」と同等です。「ヒノヒカリ」の作付けが可能な地域での

栽培に適しています。

◇ プレスリリースはこちら（農研機構 Web）

→ https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/karc/175425.html

◇ 農研機構へのお問い合わせはこちら（農研機構 Web）

→ <https://www.naro.go.jp/inquiry/index.html>

◇ お問い合わせ先

農林水産省農林水産技術会議事務局研究企画課（担当：戦略的実装班）

TEL：03-3502-7407（直通）

11. 経営マスターコース「ファイナンス」受講者募集中！

一般社団法人アグリフューチャージャパンが運営する AFJ 日本農業経営大学校では、日本の農業の未来を担う経営者から若手農業者まで、すべての農業者のためのオンラインスクールを開設しています。

今回ご紹介する講座「ファイナンス」は、農業界における「事業投資(M&A)」と「資本提携」の観点からファイナンスを体系的に学び、経営の選択肢を拓げるオンライン講座です。第一線で活躍する3名の講師陣による講義を通じて、農業界や経営の変革に対応できる「ファイナンス思考」を身につけます。

■ 充実の講師陣

● 主任講師：「農業」×「ファイナンス」のプロフェッショナル

竹林 陽一氏（(株)クリエイティブ・ジャングル 代表取締役）

● ゲスト講師(1)：銀行融資、株式による資金調達で急成長を実現

岩佐 大輝氏（(株)GRA 代表取締役 CEO）

● ゲスト講師(2)：大手銀行や企業と資本提携。外部資本を戦略的に活用し地域課題に挑む

中森 剛志氏（中森農産(株) 代表取締役）

■ ファイナンス（オンライン講義）

2026年8月20日（木）～10月29日（木）（全5回）

○ 受講料：55,000円（税込）

○ 定員：20名（先着順）

○ 申込方法：2026年7月31日（金）17:00までに下記よりお申し込みください。

◇ お申込み・講座の詳細はこちら（（一社）アグリフューチャージャパン「AFJ 日本農業経営大学校」HP）

→ <https://www.afj.or.jp/jaiam/onlineschool/finance/>

◇ お問い合わせ先

AFJ 日本農業経営大学校 オンラインスクール事務局

MAIL : application-online@afj.or.jp

TEL : 03-5781-3750

◆◆◆編集後記◆◆◆

来週は6月となり、梅雨の時期を迎えます。そこで梅雨入り時期について調べてみたところ、沖縄は平年が5月10日頃で今年は既に5月4日頃に梅雨入りしたとされています。一方、関東甲信の平年は6月7日頃、東北北部は同じく6月15日頃とのこと。南北に長い日本の国土の特徴を改めて実感しました。

このような多様な地形や気象条件があるからこそ、それぞれの土地に適した作物が育てられる「適地適栽」の営みが行われているのだと改めて感じています。自然の恵みを受けて各地域で育てられた農作物が無事に収穫時期を迎えられることを願っております。

■ 経営局公式 Facebook ページ「農水省・農業経営者 net」

→ <https://www.facebook.com/nogyokeiei>

■ ご意見・ご質問はこちら

→ <https://www.contactus.maff.go.jp/j/form/keiei/keiei/180817.html>

■ リンク URL の一部に PDF 形式のものがあります

メールマガジンに記載した URL で、一部 PDF 形式のものがあります。PDF ファイルをご覧いただくためには、農林水産省ホームページ「3 PDF ファイルについて」をご覧になり、「GetAdobeReader」のアイコンで AdobeReader をダウンロードしてください。

→ <https://www.maff.go.jp/j/use/link.html>



○ 電子出版：農業担い手メールマガジン

○ 発行日：毎月1回発行

○ 発行元：農林水産省経営局経営政策課 担当：大木

☆ このメルマガの配信申込み、バックナンバーはこちらから

→ https://www.maff.go.jp/j/kobetu_ninaite/n_hyousyouto/hyousyouto_merumaga.html

☆ このメルマガの配信変更、配信解除、パスワード再発行等はこちらから
→ <https://www.maff.go.jp/j/pr/e-mag/index.html>

